

(様式第 10)

医大病第 435 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 塚本 泰司

札幌医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-8556 札幌市中央区南 1 条西 1 7 丁目
氏 名	北海道公立大学法人札幌医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

札幌医科大学附属病院

3 所在の場所

〒060-8543 札幌市中央区南 1 条西 1 6 丁目	電話(011)611-2111
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	2 消化器内科
⑤ 神経内科	3 循環器内科
9 感染症内科	4 腎臓内科
10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	7 内分泌内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科 2 形成外科 3 リハビリテーション科 4 病理診断科 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
42床	床	6床	床	890床	938床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成29年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	254人	229.8人	483.8人	看 護 補 助 者	100人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	8人	17.8人	25.8人	理 学 療 法 士	24人	臨床検査技師	56人
薬 剤 師	54人	0.3人	54.3人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	5人	そ の 他	0人
助 産 師	28人	1.1人	29.1人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	733人	39.3人	772.3人	臨 床 工 学 士	19人	医療社会事業従事者	0人
准 看 護 師	0人	1.3人	1.3人	栄 養 士	0人	その他の技術員	7人
歯 科 衛 生 士	3人	2人	5人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	121人
管理栄養士	5人	1人	6人	診療放射線技師	49人	そ の 他 の 職 員	35人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	35人	眼 科 専 門 医	8人
外 科 専 門 医	26人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	10人
小 児 科 専 門 医	26人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14人
皮 膚 科 専 門 医	9人	整 形 外 科 専 門 医	19人
泌 尿 器 科 専 門 医	13人	麻 酔 科 専 門 医	21人
産 婦 人 科 専 門 医	13人	救 急 科 専 門 医	17人
		合 計	227人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山下 敏彦) 任命年月日 平成22年4月1日

平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療安全推進部長
平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療事故防止対策委員会委員長
平成22年4月1日～平成26年3月31日	医療クオリティ審議委員会副委員長
平成26年4月1日～現在	医療クオリティ審議委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	697.7人	23.5人	721.2人
1日当たり平均外来患者数	1,641.0人	94.6人	1,735.6人
1日当たり平均調剤数	1,346.5剤		
必要医師数	169.2625人		
必要歯科医師数	8.0人		
必要薬剤師数	25.0人		
必要(准)看護師数	419.0人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	245.7 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 103.8 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	5床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 204.9 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	165.0 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置、免疫化学自動分析装置 精製水作製装置等			
細菌検査室	50.4 m ²	〃	(主な設備) 細菌同定用質量分析装置、安全キャビネット 感受性分析装置等			
病理検査室	185.7 m ²	〃	(主な設備) 凍結ブロック作製装置、自動染色装置、 パラフィン包埋ブロック作製装置等			
病理解剖室	52.3 m ²	〃	(主な設備) 解剖台、无影灯、写真撮影装置等			
研究室	1006.8m ²	〃	(主な設備) 書棚、パソコン、プリンター、 プロジェクター、スクリーン等			
講義室	619.8 m ²	〃	室数 2 室	収容定員 544 人		
図書室	2312.1m ²	〃	室数 3 室	蔵書数 227,177 冊程度		

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	77.3%	逆紹介率	69.1%
算出根拠	A: 紹介患者の数		14,017人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,107人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		645人	
	D: 初診の患者の数		18,956人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原康行	北海道大学附属病院		医療に係る安全管理に関する識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨー (株)		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 第1回監査委員会開催後（10月19日開催予定）、開催結果と併せてHPで公開予定。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	76
2	筋萎縮性側索硬化症	30	57	特発性拡張型心筋症	61
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	45
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	28
6	パーキンソン病	103	61	自己免疫性溶血性貧血	5
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	63
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	129	66	IgA腎症	2
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	105	68	黄色靱帯骨化症	6
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	80
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	2
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	78
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	42	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	7
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	35	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	8
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	46
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	37	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	87
30	遠位型ミオパチー	3	85	特発性間質性肺炎	44
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	25
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	14
34	神経線維腫症	22	89	リンパ脈管筋腫症	6
35	天疱瘡	24	90	網膜色素変性症	27
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	49
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	6
40	高安動脈炎	31	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	59
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	132
43	顕微鏡的多発血管炎	25	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	4	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病	9	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	196	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	83	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	102	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	38	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	378	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	11	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	2	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー		161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群		162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	4
113	筋ジストロフィー	6	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺		165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症		167	マルファン症候群	5
118	脊髄髄膜瘤		168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症		175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症		177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症		180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群		184	アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん		191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	3	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群		195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	1
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	5	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	10

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β ーケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 ※一般:7対1	ハイリスク妊娠管理加算
特定機能病院入院基本料 ※結核:7対1	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料 ※精神:10対1	救急搬送患者地域連携紹介加算
臨床研修病院入院診療加算※基幹型(医科)	呼吸ケアチーム加算
臨床研修病院入院診療加算※単独又は管理(歯科)	後発医薬品使用体制加算
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	病棟薬剤業務実施加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算2
妊産婦緊急搬送入院加算	データ提出加算1
診療録管理体制加算2	データ提出加算2
医師事務作業補助体制加算 40対1	退院支援加算2
急性期看護補助体制加算50対1	精神疾患診療体制加算
看護職員夜間配置加算 16対1	精神科急性期医師配置加算
療養環境加算	救命救急入院料1
重症者等療養環境特別加算	救命救急入院料4
無菌治療室管理加算1	特定集中治療室管理料1
無菌治療室管理加算2	新生児特定集中治療室管理料1
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科身体合併症管理加算	小児入院医療管理料2(加算あり)
精神科リエゾンチーム加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
重度アルコール依存症管理加算	歯科外来診療環境体制加算
摂食障害入院医療管理加算	歯科診療特別対応連携加算
がん診療連携拠点病院加算	地域歯科診療支援病院入院加算
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料の注2	時間内歩行試験
植込型除細動器移行期加算	ヘッドアップティルト試験
高度難聴指導管理料	皮下連続式グルコース測定
外来リハビリテーション診療料	長期継続頭蓋内脳波検査
外来放射線照射診療料	脳波検査判断料1
糖尿病合併症管理料	神経学的検査
がん性疼痛緩和指導管理料1,2	補聴器適合検査
がん患者指導管理料1	小児食物アレルギー負荷検査
がん患者指導管理料2	内服・点滴誘発試験
がん患者指導管理料3	センチネルリンパ節生検1併用法
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	CT透視下気管支鏡検査加算
糖尿病透析予防指導管理料	画像診断管理加算1(医科のみ、歯科はなし)
がん治療連携計画策定料1,2	遠隔画像診断
がん治療連携管理料	ポジトロン断層撮影・コンピューター断層複合撮影
肝炎インターフェロン治療計画料	CT撮影及びMRI撮影
薬剤管理指導料	冠動脈CT撮影加算
医療機器安全管理料1	大腸CT撮影加算
医療機器安全管理料2	心臓MRI撮影加算
持続血糖測定器加算	乳房MRI撮影加算
造血器腫瘍遺伝子検査	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
遺伝学的検査	外来化学療法加算1
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	無菌製剤処理料
検体検査管理加算(Ⅳ)	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝カウンセリング加算	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡加算	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
植込型心電図検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
胎児心エコー法	がん患者リハビリテーション料

救急患者精神科継続支援料	経皮的カテーテル心筋焼灼術(磁気ナビゲーション加算)
精神科ショート・ケア	経皮的中隔心筋焼灼術
治療抵抗性統合失調症治療指導管理料	ペースメーカー移植術、ペースメーカー交換術
医療保護入院等診療料	埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術
硬膜外自家血注入	両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術
エタノールの局所注入(甲状腺)	埋込型除細動器移植術、埋込型除細動器交換術
透析液水質確保加算	両室ベising機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ベising機能付き埋込型除細動器交換術
下肢抹消動脈疾患指導管理加算	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
一酸化窒素吸入法	補助人工心臓
医科点数表第2章第10節手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	経皮的大動脈遮断術
悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	ダメージコントロール手術
組織拡張器による再建手術(乳房の場合)	胃瘻造設術
骨移植術(同種骨移植(非生体)(特殊なもの)	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
骨移植術(自家培養軟骨移植術)	腹腔鏡下肝切除術
内視鏡下椎弓切除術、内視鏡下椎間板摘出(切除)術(後方切除に限る。)	生体部分肝移植術
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
脳刺激装置植込術、頭蓋内電極植込術、脳刺激装置交換術	腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術
脊髄刺激装置植込術、脊髄刺激装置交換術	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
緑内障手術(インプラント挿入術プレートのあるもの)	同種死体腎移植術
人工内耳埋込術・人工中耳用材料	生体腎移植術
植込型骨導補聴器移植術及び交換術	膀胱水圧拡張術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術)	人工尿道括約筋植込・置換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)
経皮的冠動脈形成術	輸血管理料 I
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	自己生体組織接着剤作成術
経皮的冠動脈ステント留置術	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
経カテーテル大動脈弁置換術	内視鏡手術用支援機器加算

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アルツハイマー病モデルマウスを用いた酸化ストレス状態制御の試みと治療への応用研究	下濱 俊	神経内科学講座	5,000,000	(補委) 日本学術振興会
抗ウイルス自然免疫応答解析による上気道疾患病態解明と治療戦略個別化の探索	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	2,900,000	(補委) 日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植およびリハビリによって誘導される虚血脳可塑性の基礎的解析	佐々木 雄一	リハビリテーション医学講座	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
胃癌のBH3 プロファイリングに基づく新規抗がん剤感受性試験の開発および予後予測	河野 豊	腫瘍内科学講座	600,000	(補委) 日本学術振興会
骨髄-腸管連関の解明と治療応用	山下 健太郎	消化器内科学講座	900,000	(補委) 日本学術振興会
グリコーゲン合成酵素キナーゼ3βのミトコンドリア移行抑制による心不全治療の開発	丹野 雅也	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
心筋細胞のネクロプトーシスにおけるミトコンドリア透過性遷移の役割	三浦 哲嗣	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	900,000	(補委) 日本学術振興会
肺サーファクタント蛋白質の新作用を応用した肺傷害・線維化制御	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
心血管・代謝疾患における分泌型および異所性発現型脂肪酸結合タンパクの役割解明	古橋 真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
回復するうつ病治療:治療阻害因子から解明する脳神経回路網修復促進ストラテジー	橋本 恵理	神経精神医学講座	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
病院内の自殺事故の実態調査および病院管理者と医療者に対する自殺予防教育	河西 千秋	神経精神医学講座	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
IVIMイメージングによる化学放射線治療効果・予後予測法確立	畠中 正光	放射線診断学	800,000	(補委) 日本学術振興会
過冷却プログラム凍結したヒト肝幹細胞を利用した再生外科治療の橋渡的基礎研究	水口 徹	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた大腸癌末梢血の抗EGFR抗体非侵襲的感受性診断の検討	竹政 伊知朗	消化器・総合・乳腺・内分泌外科学講座	800,000	(補委) 日本学術振興会
発達脳に対する虚血および骨髄間葉系幹細胞移植の及ぼす影響の基礎的解析	坂井 拓朗	小児科学講座	1,200,000	(補委) 日本学術振興会
がん幹細胞特異抗体を用いた悪性膠芽腫に対する分子標的療法の開発	鰐淵 昌彦	脳神経外科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
慢性期脊髄損傷に対する骨髄間葉系幹細胞移植による革新的治療法の開発	森田 智慶	整形外科科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
骨粗鬆症における骨組織内の骨代謝/疼痛関連分子の発現変化と疼痛発生機序の解明	射場 浩介	整形外科科学講座	800,000	(補委) 日本学術振興会
亜硝酸塩と新規代用血漿剤を用いた出血性ショックに対する新たな治療戦略の開発	平田 直之	麻酔科学講座	200,000	(補委) 日本学術振興会
上皮細胞極性と器官形成シグナル制御による咽頭がん浸潤・転移抑制因子の探索	近藤 敦	耳鼻咽喉科学講座	1,000,000	(補委) 日本学術振興会
脂質分解酵素による眼内浄化機構の解明	平岡 美紀	眼科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会
口腔扁平上皮癌に対する新規癌抗原の同定と臨床応用に向けての研究	小林 淳一	口腔外科学講座	800,000	(補委) 日本学術振興会
口腔がん細胞の代謝調節を標的とした新規治療法の開発	萩 和弘	口腔外科学講座	500,000	(補委) 日本学術振興会
AD患者皮膚における皮膚バリアタンパク・シスタチンAの発現解析	菅 裕司	皮膚科学講座	500,000	(補委) 日本学術振興会
脳脊髄液漏出症における神経放射線画像の解析および診断精度向上への応用	堀田 祥史	脳神経外科学講座	500,000	(補委) 日本学術振興会
膝靭帯のバイオメカニクス研究	鈴木 智之	整形外科科学講座	600,000	(補委) 日本学術振興会
高血圧性肥大心筋に対するデクスメトミジンの直接心筋保護効果	吉川 裕介	麻酔科学講座	900,000	(補委) 日本学術振興会
ヒトT(FH)細胞分化モデルによる免疫アレルギー治療の研究	長屋 朋典	耳鼻咽喉科学講座	700,000	(補委) 日本学術振興会
DPP8/9阻害剤を用いた新たな多発性骨髄腫の治療法の開発	井山 諭	血液内科学	1,600,000	(補委) 日本学術振興会
ムコイド型肺炎球菌の薬剤抵抗性の解明	宮本 篤	医療薬学	1,300,000	(補委) 日本学術振興会
腸上皮幹細胞ニッチの再構築と治療応用	有村 佳昭	消化器内科学講座	1,500,000	(補委) 日本学術振興会
内皮細胞特異的スプライシングバリエントからアプローチする癌微小環境の分子病態解析	山本 英一郎	消化器内科学講座	1,100,000	(補委) 日本学術振興会

小計 32

NASHからの肝発癌における酸化的DNA傷害程度と修復能の検討と治療応用	宮西 浩嗣	腫瘍内科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
肺コレクチンによる肺炎球菌感染症の重症化阻止機構の解明と臨床応用	黒沼 幸治	呼吸器・アレルギー内科学講座	900,000	(補委)	日本学術振興会
多発性骨髄腫のゲノムメチル化からアプローチする悪性化機構と新規治療標的	石田 禎夫	消化器内科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
MDS・AML由来エキソソームによる間質機能修飾機構の解析と新規治療法の開発	小船 雅義	血液内科学	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
高次元サイトメトリ法によるGVHD制御細胞の包括的解析と予後因子の同定	村瀬 和幸	腫瘍内科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
急性移植片対宿主病の病態解析及びその分子標的療法の開発	山本 雅樹	小児科学講座	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
ワクチン導入によるロタウイルス分子疫学的変化～G8遺伝子型の流行を通じて～	津川 毅	小児科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
精神症状(BPSD)を主体とする新規PS1変異アルツハイマー病モデルマウスの開発	川又 純	神経内科学講座	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
臨床応用が可能な実用的な放射線感受性予測法の開発	坂田 耕一	放射線医学講座	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
バイオマーカーを用いた腹部骨盤部放射線治療後の治療効果および有害事象予測	染谷 正則	放射線医学講座	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
鼻粘膜におけるロイコトリエンE4受容体-GPR99の役割と新しい治療への応用	白崎 英明	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜上皮におけるtricellular junctionの形態・機能解析	大國 毅	耳鼻咽喉科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
頭頸部がんにおけるタイト結合関連分子JAM-Aを用いた補助診断および分子標的治療	黒瀬 誠	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
ヒト唾液腺上皮に着目したIgG4関連疾患における線維化メカニズムの解明	高野 賢一	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
高度侵襲後の胃蠕動低下とグレリン濃度変化、および六君子湯の有効性の検討	巽 博臣	集中治療医学	1,900,000	(補委)	日本学術振興会
大腸癌の分子異常サブタイプ別のmicroRNA解析と次世代診断・標的治療への応用	能正 勝彦	消化器内科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
酸化ストレスによる多発性骨髄腫病態修飾機序の解析および新規治療法の開発	高田 弘一	腫瘍内科学講座	2,100,000	(補委)	日本学術振興会
炎症性腸疾患小家系におけるパーソナルゲノミクス解析	苗代 康可	消化器内科学講座	2,000,000	(補委)	日本学術振興会
HDAC classIIa阻害によるアポトーシス誘導を応用した新規肺癌治療の開発	小野 道洋	腫瘍内科学講座	2,200,000	(補委)	日本学術振興会
mTORシグナル異常制御による心不全治療の開発	矢野 俊之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
腎臓における脂肪酸結合タンパク4の役割と臨床的意義の解明	田中 希尚	循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
選択的HDAC class II a阻害剤による新規多発性骨髄腫治療法の開発	菊地 尚平	腫瘍内科学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
骨髄間葉系幹細胞移植を用いた難治性てんかんに対する新規治療法の開発	福村 忍	小児科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
EPRイメージング法による新規Theranosticsプローブの開発研究	江本 美穂	神経内科学講座	1,900,000	(補委)	日本学術振興会
大きく不定形な末梢領域動脈瘤に対する機能温存と無再発をめざす経済的塞栓術の開発	廣川 直樹	放射線医学講座	1,900,000	(補委)	日本学術振興会
ステント留置後血管に対する骨髄幹細胞移植による内膜新生メカニズムの解析	小松 克也	脳神経外科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
脳局所電場電位に着目した脳虚血の病態解析と新治療の開発	三上 毅	脳神経外科学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
皮質-皮質間誘発電位を用いたてんかんネットワークの研究	江夏 怜	脳神経外科学講座	2,800,000	(補委)	日本学術振興会
トランスクリプトーム解析による術後せん妄・認知機能障害とエイジングの関連解析	山藤 道明	麻酔科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
化学療法抵抗性尿路上皮がんに対する5-Aza-CdRの臨床応用を目指した基礎研究	舂森 直哉	泌尿器科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
海綿体神経損傷モデルに対する急性期骨髄幹細胞移植の有効性～勃起機能は回復するか～	松田 洋平	泌尿器科学講座	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
3細胞間局在ASPP2/LSR/AMOT/Merlin/YAP蛋白複合体の役割	郷久 晴朗	産婦人科学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
癌関連網膜症発症機序における関連因子の細胞内ネットワークの検討	大黒 浩	眼科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
硫化水素の中樞神経系中毒機序と脳保護作用の解明	成松 英智	救急医学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
心停止後症候群患者に対する脳波解析	宮田 圭	救急医学講座	2,600,000	(補委)	日本学術振興会

肝不全を来す蘇生後腸管症候群の病態解明と治療戦略	原田 敬介	救急医学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
口腔がんに対する再発予防がんペプチドワクチン療法の確立	宮崎 晃亘	口腔外科学講座	2,000,000	(補委)	日本学術振興会
口腔癌におけるceRNAの探索と病的意義の解明	西山 廣陽	口腔外科学講座	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
グライコミクス解析を応用した尿中糖鎖検出による新規癌診断法の開発	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	2,000,000	(補委)	日本学術振興会
新規免疫バランスの概念に基づいた液性免疫異常を伴う疾患の解析	水見 徹夫	耳鼻咽喉科学講座	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
トロンボモデュリンを用いた敗血症におけるHistone蛋白制御の検討	升田 好樹	集中治療医学	800,000	(補委)	日本学術振興会
口腔癌発育先進部における腫瘍微小環境の解明と治療への応用	平塚 博義	口腔外科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
アルツハイマー病病理におけるEPRイメージングを用いた酸化ストレス評価と病態解明	松村 晃寛	神経内科学講座	900,000	(補委)	日本学術振興会
エピジェネティクスを通じた術後認知機能障害の発症の機序解明	立花 俊祐	麻酔科学講座	600,000	(補委)	日本学術振興会
HSP90阻害剤を用いた臓器移植後拒絶反応に対する新規分子標的治療法の開発	前鼻 健志	泌尿器科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症における胎盤増殖因子低下機序の解明と小胞体ストレスとの関連性の解析	水内 将人	産科周産期科学	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
小児扁桃肥大への濾胞ヘルパーT細胞の関与と分化誘導解析によるSAS治療への応用	坪松 ちえ子	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
敗血症心筋ミトコンドリアに対する亜硝酸塩の保護作用機序の解明	川口 亮一	麻酔科学講座	900,000	(補委)	日本学術振興会
日米の消化器癌を用いたmicrobiome解析とエピゲノム異常・免疫応答との関連	三橋 慧	消化器内科学講座	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
Kras変異陽性肺癌に発現するsurvivinの治療標的分子としての基礎的検討	角 俊行	呼吸器・アレルギー内科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
ミクログリア機能不全に対する新規アルツハイマー病治療の開発	岩原 直敏	神経内科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
神経筋伝達に変化する病態における筋弛緩薬・拮抗薬の投与方法と筋力評価法の検討	高橋 和伸	麻酔科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
血管内皮グリコカリックスに対するアルブミン療法の確立	数馬 聡	麻酔科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
日本人に適した新しい声門上器具の臨床的有用性の評価	君島 知彦	麻酔科学講座	2,300,000	(補委)	日本学術振興会
神経内分泌細胞の存在が前立腺を肥大させるか	京田 有樹	泌尿器科学講座	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
膀胱癌におけるGC療法抵抗性に関わる分子機構の解明	進藤 哲哉	泌尿器科学講座	1,800,000	(補委)	日本学術振興会
SNX5による甲状腺濾胞上皮細胞の機能調節機構の解明	實川 純人	耳鼻咽喉科学講座	1,300,000	(補委)	日本学術振興会
RSウイルス下気道炎症発症予測のための疾患特異的microRNAの有用性の検討	山本 圭佑	耳鼻咽喉科学講座	1,500,000	(補委)	日本学術振興会
ヒト鼻粘膜を介した新規drug delivery systemの構築	矢島 諒人	耳鼻咽喉科学講座	1,700,000	(補委)	日本学術振興会
α-klotho遺伝子欠損による創治遅延メカニズムの解明と治療薬の開発	須貝 明日香	形成外科学	1,000,000	(補委)	日本学術振興会
FFPE組織を用いた比較プロテオミクスによる高分化型脂肪肉腫のバイオマーカー探索	青山 智志	病理診断学	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
膵管内乳頭粘液性腫瘍の発生メカニズムを反映した新規マーカーの確立	山口 洋志	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
関節リウマチで変性した滑膜は滑膜間葉系幹細胞を異常化させる足場となるのか？	松村 崇史	整形外科科学講座	1,100,000	(補委)	日本学術振興会
脊髄損傷に対する骨髄幹細胞移植直後からの神経機能回復のメカニズムの解析	押切 勉	整形外科科学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
メラノーマ患者の血液循環腫瘍由来RNAを用いた病勢モニタリング法の確立	宇原 久	皮膚科学講座	1,400,000	(補委)	日本学術振興会
パーキンソン病の認知機能障害の神経基盤：脳賦活、機能的・構造的結合、血流解析	服部 高明	リハビリテーション医学講座	900,000	(補委)	日本学術振興会
肝切除術後肝不全予防のための術中ビジュオモニタリングによる新規管理法の開発	目黒 誠	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	1,200,000	(補委)	日本学術振興会
Liquid biopsy及びDigitalPCRを用いた高感度胃癌診断法の開発	佐藤 康史	腫瘍内科学講座	1,600,000	(補委)	日本学術振興会
トランスクリプトーム解析による術後悪心嘔吐の予測マーカーの確立	早瀬 知	麻酔科学講座	900,000	(補委)	日本学術振興会
有機リン中毒性痙攣の危険因子、および各種抗痙攣薬の治療効果の研究	高田 幸昌	麻酔科学講座	600,000	(補委)	日本学術振興会

尿路上皮癌に対する新規化学免疫療法の確立	舛森 直哉	泌尿器科学講座	120,000	補委	日本学術振興会
尿路上皮癌に対する新規化学免疫療法の確立	前田 俊浩	泌尿器科学講座	120,000	補委	日本学術振興会
新規生体危険信号因子ヌクレオフォスミン投与による生体反応の解析	升田 好樹	集中治療医学	100,000	補委	日本学術振興会
大腸锯齿状腺腫を前癌病変とする新たな大腸発癌経路の同定と発癌メカニズムの解明	山本 英一郎	消化器内科学講座	100,000	補委	日本学術振興会
S100タンパク質トランスジェニックラットを用いた潰瘍性大腸炎発症機構の解析	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	10,000	補委	日本学術振興会
敗血症におけるnucleophosminの動態と制御法の検討	升田 好樹	集中治療医学	600,000	補委	日本学術振興会
PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	畠中 正光	放射線診断学	80,000	補委	日本学術振興会
PC-cineMRIによる肺高血圧症の早期発見と治療効果判定法の確立	山 直也	放射線診断学	80,000	補委	日本学術振興会
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	10,050,000	補委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに治療指針の確立を目指した研究	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	400,000	補委	厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	高橋 裕樹	消化器・免疫・リウマチ内科学講座	100,000	補委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	300,000	補委	厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	高橋 弘毅	呼吸器・アレルギー内科学講座	500,000	補委	厚生労働省
全国がん登録、院内がん登録および既存がん統計情報の活用によるがん及びがん診療動向把握に関する包括的研究	平田 公一	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	200,000	補委	厚生労働省
下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究	津川 毅	小児科学講座	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
多系統萎縮症の自然歴とその修飾因子に関する研究	下濱 俊	神経内科学講座	390,000	補委	日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	江森 誠人	整形外科科学講座	240,000	補委	日本医療研究開発機構
インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	井山 論	血液内科学	300,000	補委	日本医療研究開発機構
小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究	要藤 裕孝	小児科学講座	200,000	補委	日本医療研究開発機構
IgG4関連疾患の病因病態解明と新規治療法確立に関する研究	高橋 裕樹	免疫・リウマチ内科学	1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	氷見 徹夫	耳鼻咽喉科学	650,000	補委	日本医療研究開発機構
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	下濱 俊	神経内科学講座	845,000	補委	日本医療研究開発機構
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	舛森 直哉	泌尿器科学講座	273,000	補委	日本医療研究開発機構
進行臓器がんを対象とした複合型CTLワクチン療法第2相試験	水口 徹	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座	10,000,000	補委	日本医療研究開発機構
自殺未遂者支援のための社会的実装研究	河西 千秋	神経精神医学講座	7,000,000	補委	日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	下濱 俊	神経内科学講座	1,200,000	補委	日本医療研究開発機構
難治性炎症性腸炎疾患を対象としたアドレメデュリン製剤による医師主導臨床試験の実施	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	1,300,000	補委	日本医療研究開発機構
抗菌薬3剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療	仲瀬 裕志	消化器内科学講座	910,000	補委	日本医療研究開発機構
平成28年度子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)	遠藤 俊明	産婦人科学講座	300,000	補委	環境省
南檜山圏域周産期環境研究事業委託業務	齋藤 豪 山蔭 道明	産婦人科学講座 麻酔科学講座	12,000,000	補委	北海道
消化器内科学分野に関する学術研究動向―肝疾患領域における治療法の進歩と今後の展望	加藤 淳二	腫瘍内科学講座	1,690,000	補委	日本学術振興会

計 133

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Shimizu H, Arimura Y, Onodera K, et al.	消化器内科	Malignant potential of gastrointestinal cancers assessed by structural equation modeling.	Plos One 2016, 10:e0149327(オンライン)	Original Article
2	Saito M, Yamashita K, Arimura Y, et al.	消化器内科	Serum HER2 as an adjunct to assess HER2 status for advanced gastric cancer: a prospective multicenter trial (SHERLOCK).	Acta Oncol 2016, 55:309- 317	Original Article
3	Kurihara H, Maruyama R, Ishiguro K, et al.	消化器内科	The relationship between EZH2 expression and microRNA-31 in colorectal cancer and the role in evolution of the serrated pathway.	Oncotarget 2016, 7:12704- 12717	Original Article
4	Nakase H, Keum B, Ye BD, et al.	消化器内科	Treatment of inflammatory bowel disease in Asia: the results of a multinational web-based survey in the 2nd Asian Organization of Crohn's and Colitis (AOCC) meeting in Seoul.	Intestinal Research 2016; 14: 231-239.	Original Article
5	Adachi Y, Akino K, Mita H, et al.	消化器内科	Systemic Prophylactic Antibiotics for the Modified Introducer Method for Percutaneous Endoscopic Gastrostomy: A Prospective, Randomized, Double-Blind Study.	J Clin Gastroenterol. 2016 Oct;50(9):727-32	Original Article
6	Matsunaga Y, Adachi Y, Sasaki Y, et al.	消化器内科	The effect of forced expression of mutated K- RAS gene on gastrointestinal cancer cell lines and the IGF-1R targeting therapy.	Mol Carcinog. 2017 Feb;56(2):515-526.	Original Article

7	Iida T, Nakagaki S, Satoh S, et al.	消化器内科	Clinical outcomes of sigmoid colon volvulus: identification of the factors related to success in endoscopic detorsion.	Intest Res. 2017 Apr;15(2):215-220.	Original Article
8	望月敦史	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Worsening of mitral valve regurgitation after radiofrequency catheter ablation of ventricular arrhythmia originating from a left ventricular papillary muscle.	HeartRhythm Case Rep. 2017 Feb 10;3(4):215-218.	Original Article
9	古橋真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Serum FABP5 concentration is a potential biomarker for residual risk of atherosclerosis in relation to cholesterol efflux from macrophages.	Sci Rep. 2017 Mar 16;7(1):217.	Original Article
10	望月敦史	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Left atrial strain assessed by three-dimensional speckle tracking echocardiography predicts atrial fibrillation recurrence after catheter ablation in patients with paroxysmal atrial fibrillation.	J Echocardiogr. 2017 Jun;15(2):79-87.	Original Article
11	村上直人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Distinct risk factors of atrial fibrillation in patients with and without coronary artery disease: a cross-sectional analysis of the BOREAS-CAG Registry data.	Open Heart. 2017 Jan 16;4(1):e000573.	Original Article
12	古橋真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Transcriptome and Metabolome Analyses in Exogenous FABP4- and FABP5-Treated Adipose-Derived Stem Cells.	PLoS One. 2016 Dec 9;11(12):e0167825.	Original Article
13	小山雅之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Lethal heart failure with anti-mitochondrial antibody: an arrhythmogenic rightventricular cardiomyopathy mimetic.	Eur Heart J. 2017 Jan 7;38(2):123.	Case report

14	大西浩文	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Impact of longitudinal status change in metabolic syndrome defined by two different criteria on new onset of type 2 diabetes in a general Japanese population: the Tanno-Sobetsu Study.	Diabetol Metab Syndr. 2016 Sep 5;8(1):64.	Original Article
15	安部功記	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Soleal vein dilatation assessed by ultrasonography is an independent predictor for deep vein thrombosis after major orthopedic surgery.	J Cardiol. 2017 May;69(5):756-762.	Original Article
16	西澤慶太郎	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Chronic Treatment With an Erythropoietin Receptor Ligand Prevents Chronic Kidney Disease-Induced Enlargement of Myocardial Infarct Size.	Hypertension. 2016 Sep;68(3):697-706.	Original Article
17	古橋真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Independent Link Between Levels of Proprotein Convertase Subtilisin/Kexin Type 9 and FABP4 in a General Population Without Medication.	Am J Cardiol. 2016 Jul 15;118(2):198-203.	Original Article
18	古橋真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Possible Increase in Serum FABP4 Level Despite Adiposity Reduction by Canagliflozin, an SGLT2 Inhibitor.	PLoS One. 2016 Apr 28;11(4):e0154482.	Original Article
19	西田絢一	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	BOREAS-CAD1 Investigators. Does a Reduction in the Glomerular Filtration Rate Increase the Overall Severity of Coronary Artery Stenosis?	Intern Med. 2016;55(8):871-7.	Original Article
20	小山雅之	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Favorable response to an endothelin receptor antagonist in mitomycin-induced pulmonary veno-occlusive disease with pulmonary capillary hemangiomatosis.	Int J Cardiol. 2016 Jun 1;212:245-7.	Case report
21	Yasui K,	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Pulmonary vascular resistance estimated by Doppler echocardiography predicts mortality in patients with interstitial lung disease.	J Cardiol. 2016 Oct;68(4):300-7.	Original Article

22	古橋真人	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Local Production of Fatty Acid-Binding Protein 4 in Epicardial/Perivascular Fat and Macrophages Is Linked to Coronary Atherosclerosis.	Arterioscler Thromb Vasc Biol. 2016 May;36(5):825-34.	Original Article
23	湯田 聡	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Clinical implications of left atrial function assessed by speckle tracking echocardiography.	J Echocardiogr. 2016 Sep;14(3):104-12.	Original Article
24	Ukita Y	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	Prevalence and clinical characteristics of degenerative mitral stenosis. J Cardiol.	2016 Sep;68(3):248-52.	Original Article
25	田中希尚	循環器・腎臓・代謝内分泌内科	BOREAS HD study Investigators. Impact of use of angiotensin II receptor blocker on all-cause mortality in hemodialysis patients: prospective cohort study using a propensity-score analysis.	Clin Exp Nephrol. 2016 Jun;20(3):469-78. d	Original Article
26	Kondoh S, Chiba H, Nishikiori H, et al.	医学部 呼吸器・アレルギー内科学講座	Validation of the Japanese disease severity classification and the GAP model in Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Investig. 2016May; 54:327-33.	Original Article
27	Horibe R, Hirohashi Y, Asano T, et al.	医学部 呼吸器・アレルギー内科学講座	Brother of the regulator of the imprinted site (BORIS) variant subfamily 6 is a novel target of lung cancer stem-like cell immunotherapy.	PLoS One. 2017 Mar;12:(オンライン e0171460).	Original Article
28	Okagawa Y, Takada K, Arihara , et al	腫瘍内科・血液内科	Activated p53 with Histone Deacetylase Inhibitor Enhances L-Fucose-Mediated Drug Delivery through Induction of Fucosyltransferase 8 Expression in Hepatocellular Carcinoma Cells.	PLoS One. 2016 Dec 15;11(12)	Original Article

29	Ibata S, Sato T, Kuroda H, et al	腫瘍内科・血液内科	A phase II trial of small-dose bortezomib, lenalidomide and dexamethasone (sVRD) as consolidation/maintenance therapy in patients with multiple myeloma.	Cancer Chemother Pharmacol. 2016 Nov;78(5):1041-1049	Original Article
30	Ono M, Takimoto R, Osuga T, et al	腫瘍内科・血液内科	Targeting Notch-1 positive acute leukemia cells by novel fucose-bound liposomes carrying daunorubicin.	Oncotarget. 2016 Jun 21;7(25):38586-38597.	Original Article
31	Osuga T, Takimoto R, Ono M, et al	腫瘍内科・血液内科	Relationship Between Increased Fucosylation and Metastatic Potential in Colorectal Cancer.	J Natl Cancer Inst. 2016 Sep 14;108(9).	Original Article
32	Kamihara Y, Takada K, Sato T, et al	腫瘍内科・血液内科	The iron chelator deferasirox induces apoptosis by targeting oncogenic Pyk2/ β -catenin signaling in human multiple myeloma.	Oncotarget. 2016 Sep 27;7(39):64330-64341.	Original Article
33	Ibata S, Sato T, Takada K, et al	腫瘍内科・血液内科	Isoform D of vascular endothelial growth factor in systemic capillary leak syndrome: a case report.	J Med Case Rep. 2016 May 24;10:125	Case report
34	Osuga T, Takimoto R, Ono M, et al	腫瘍内科・血液内科	Relationship Between Increased Fucosylation and Metastatic Potential in Colorectal Cancer.	J Natl Cancer Inst. 2016 Apr 13;108(8).	Original Article
35	Shima H, Kutomi G, Satomi F, et al.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	SOX2 and ALDH1 as predictors of operable breast cancer	Anticancer Res.2016 36 6 2945-53	Original Article
36	Mizuguchi T, Torigoe T, Satomi F, et al.	消化器・総合、乳腺・内分泌外科学	Trials of vaccines for pancreatic ductal adenocarcinoma: Is there any hope of an improved prognosis?	Surg Today 2016 46 2 139-148	Original Article

37	Kutomi G Mizuguchi T, Satomi F, et al.	消化器・総合、乳腺・内分泌 外科学	Current status of the prognostic molecular biomarkers in breast cancer: A systematic review.	Oncol Lett. 2017 Mar 13 1491- 1498	Original Article
38	Nakajima T, Tachibana K, Takagi N, et al	心臓血管外科	Histomorphologic superiority of internal thoracic arteries over right gastroepiploic arteries for coronary bypass	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Jun;151(6):1704-8.	Original Article
39	射場浩介	整形外科	A functional test in assessment of hand dexterity in young children.	J Hand Surg Eur 41: 352-353, 2016.	Original Article
40	道家孝幸	整形外科	Regional osteoporosis due to osteoclast activation as a trigger for the pain-like behaviors in tail-suspended mice.	J Orthop Res 2016[. Epub ahead of print]	Original Article
41	射場浩介	整形外科	Further significant effects of eldecalcitol on bone resorption markers and bone mineral density in postmenopausal osteoporosis patients having undergone long- term bisphosphonate treatment.	J Bone Miner Metab 2016[. Epub ahead of print]	Original Article
42	森田智慶	整形外科	Intravenous infusion of mesenchymal stem cells promotes functional recovery in a model of chronic spinal cord injury.	Neuroscience 335: 221- 231, 2016	Original Article
43	小助川維摩	整形外科	Anatomic Anteversion of the Acetabular Component Correlates with Polyethylene Linear Wear in Total Hip Arthroplasty: The Three- Dimensional Numerical Analysis.	Open Journal of Orthopedics 6: 126-134, 2016.	Original Article
44	塚原智紀	整形外科	The future of immunotherapy for sarcoma.	Expert Opin Biol Ther 16:1049-57, 2016.	Review

45	塚原智紀	整形外科	Peptide vaccination therapy: Towards the next generation.	Pathol Int 66: 547-553, 2016.	Review
46	森田智慶	整形外科	Olfactory receptor family receptor, family 7, subfamily C, member 1 is a novel biological marker of colon cancer-initiating cells and is a potent target of immunotherapy.	Clin Cancer Res 22: 3298-3309, 2016.	Original Article
47	Wanibuchi M, Akiyama Y, Mikami T, et al.	脳神経外科	Intraoperative mapping and monitoring for rootlets of the lower cranial nerves related to vocal cord movement.	Neurosurgery 78:829-834, 2016.	Original Article
48	Wanibuchi M, Noshiro S, Sugino T, et al.	脳神経外科	Training for skull base surgery by using colored temporal bone model created by three-dimensional printing technology.	World Neurosurgery 91:66-72, 2016.	Original Article
49	Wanibuchi M, Komatsu K, Honma T, et al.	脳神経外科	Quantitative assessment of flow reduction after feeder embolization in meningioma by using pseudocontinuous arterial spin labeling.	World Neurosurgery 93:237-245, 2016.	Original Article
50	Mikami T.	脳神経外科	(Reviewer's comment), Management strategy for bilateral complex vertebral artery aneurysms.	Neurosurg Rev 39:289-296, 2016.	Letter
51	Akiyama Y, Ohtaki M, Kim S, et al.	脳神経外科	Association of subperiosteal hematoma with minor injury.	J Craniofac Surg 26:e542-543, 2015.	Case report
52	Akiyama Y, Suzuki H, Mikuni N.	脳神経外科	Germinoma mimicking tumefactive demyelinating disease in pediatric patients.	Neurosurg 51:149-153, 2016.	Case report

53	Akiyama Y, Suzuki H, Ochi S, et al.	脳神経外科	Evaluation of posterior hippocampal epileptogenicity during epilepsy surgery for temporal lobe cavernoma by the occipital approach.	World Neurosurg 84:1494.e1-6, 2015.	Original Article
54	Ochi S, Yoshifuji K, Watanabe T, et al.	脳神経外科	Infant motor development recovery after surgery of post traumatic epilepsy(PTE) - Meaningful change of fractional anisotropy(FA) of MRI diffusion tensor imaging(DTI) in a case growing skull fracture.	J Neurol Disord 4:284, 2016.	Case report
55	Enatsu R, Gonzalez- Martinez J, Bulacio J, et al.	脳神経外科	Connectivity of the frontal and anterior insular network: a cortico-cortical evoked potential study.	J Neurosurg 125:90-101, 2016.	Original Article
56	Enatsu R, Kanno A, Ohtaki S, et al.	脳神経外科	Intraoperative subcortical fiber mapping with subcortico-cortical evoked potentials.	World Neurosurg 86:478-483,2016.	Original Article
57	Enatsu R, Mikuni N.	脳神経外科	Invasive evaluations for epilepsy surgery: A review of the literature.	Neurol Med Chir(Tokyo) 56:221-227, 2016.	Review
58	Komatsu K, Mikami T, Noshiro S, et al.	脳神経外科	Reversibility of white matter hyperintensity by revascularization surgery in moyamoya disease.	J Stroke Cerebrovasc Dis 25:1495-1502,2016.	Original Article
59	Ohtaki S, Akiyama Y, Kanno A, et al.	脳神経外科	The influence of depth of anesthesia on motor evoked potential response during awake craniotomy.	J Neurosurg 126:260-265, 2017.	Original Article
60	Ohtaki S, Wanibuchi M, Kataoka- Sasaki Y, et al.	脳神経外科	ACTC1 as an invasion and prognosis marker in glioma.	J Neurosurg 126:467-475, 2017.	Original Article

61	Noshiro S, Mikami T, Komatsu K, at al.	脳神経外科	Neuromodulatory role of revascularization surgery in moyamoya disease.	World Neurosurg 91:473-482, 2016.	Original Article
62	Noshiro S, Mikami T, Komatsu K, at al.	脳神経外科	Cortical and subcortical vascular hypointensity of T2* weighted imaging in moyamoya disease.	Neurol Res 38:110-116, 2016.	Original Article
63	Noshiro S, Mikami T, Kataoka- Sasaki Y, et al.	脳神経外科	Biological relevance of tissue factor and IL-6 in arteriovenous malformations.	Neurosurg Rev 40:359-367, 2017.	Original Article
64	Suzuki Y, Akiyama Y, Kimura Y, et al.	脳神経外科	Pleomorphic xanthoastrocytoma with anaplastic features in the tectal region in a young adult patient: a case report.	World Neurosurg. Oct 2016;94:580 e511-580 e515.	Case report
65	Hashimoto A, Mikami T, Komatsu K, et al.	脳神経外科	Assessment of hemodynamic compromise using computed tomography perfusion in combination with 123I-IMP single-photon emission computed tomography without acetazolamide challenge test.	J Stroke Cerebrovasc Dis 26:627-635, 2017.	Original Article
66	Suzuki H, Wanibuchi M, Komatsu K, et al.	脳神経外科	Erdheim-Chester disease involving the central nervous system with the unique appearance of a coated vertebral artery.	NMC Case Report Journal 3:125-128, 2016.	Case report
67	Suzuki H, Mikami T, Komatsu K, et al.	脳神経外科	Assessment of the cortical artery using computed tomography angiography for bypass surgery in moyamoya disease.	Neurosurg Rev 40:299-307, 2017.	Original Article
68	Arihara M, Miyata K, Iihoshi S, et al.	脳神経外科	Endovascular therapy for a post-irradiated cervical pseudoaneurysm at the carotid stump: a case report.	NMC Case Report(Tokyo) 4:59-62, 2017.	Case report

69	Abe A, Hiraoka M, Ohguro H, et al.	眼科学講座	Preferential hydrolysis of truncated oxidized glycerophospholipids by lysosomal phospholipase A2.	J Lipid Res. 2017 Feb;58(2):339-349.	Original Article
70	Sawada K, Hiraoka M, Abe A, et al.	眼科学講座	Prolonged ocular inflammation in endotoxin-Induced uveitis in Lysosomal phospholipase A2-deficient mice.	Curr Eye Res. 2017 Apr;42(4):611-616.	Original Article
71	Ohkawa E, Hiraoka M, Abe A, et al.	眼科学講座	Fluctuation of lysosomal phospholipase A2 in experimental autoimmune uveitis in rats.	Exp Eye Res. 2016 Aug;149:66-74.	Original Article
72	Oe C, Hiraoka M, Tanaka S, et al.	眼科学講座	Acute retinal necrosis associated with Epstein-Barr virus in a patient undergoing immunosuppressive therapy.	Case Rep Ophthalmol. 2016 Apr 12;7(1):195-201.	Case report
73	Sawada K, Hiraoka M, Ohguro H.	眼科学講座	Effect of antiglaucoma medicine on intraocular pressure in DBA/2J mice.	Ophthalmic Res. 2016;55(4):205-11.	Original Article
74	Hiraoka M, Abe A, Inatomi S, et al.	眼科学講座	Augmentation of lysosomal phospholipase A2 activity in the anterior chamber in glaucoma.	Curr Eye Res. 2016 May;41(5):683-8.	Original Article
75	Kato J, Hida T, Yamashita T et al.	皮膚科	Successful TS-1 monotherapy as the second-line treatment for advanced extramammary Paget's disease: A report of two cases.	J Dermatol. 2017 Sep 11.37(3):1219-1225.	Case report
76	Uhara H, Kiyohara Y, Tsuda A et al.	皮膚科	Characteristics of adverse drug reactions in a vemurafenib early post-marketing phase vigilance study in Japan.	Clin Transl Oncol. 2017 Jul 3 35(14):1515-1521.	Original Article

77	Sato S, Hida T, Okura M et al.	皮膚科	An adult case of cardiofaciocutaneous syndrome with BRAF mutation.	Eur J Dermatol. 2017 Aug 1;27(4):412-413.	Case report
78	Hida T, Nishio M, Nogami N et al.	皮膚科	Efficacy and safety of nivolumab in Japanese patients with advanced or recurrent squamous non-small cell lung cancer.	Cancer Sci. 2017 May;108(5):1000-1006.	Original Article
79	Kato J, Sumikawa Y, Hida T et al.	皮膚科	Serum cytokeratin 19 fragment 21-1 is a useful tumor marker for the assessment of extramammary Paget's disease.	J Dermatol. 2017 Jun;44(6):666-670.	Original Article
80	Yoshikawa M, Sumikawa Y, Hida T et al.	皮膚科	Clinical and epidemiological analysis in 149 cases of rhododendrol-induced leukoderma.	J Dermatol. 2017 May;44(5):582-587.	Original Article
81	Kumagai A, Kubo T, Kawata K et al.	皮膚科	Keratinocytes in atopic dermatitis express abundant Δ Np73 regulating thymic stromal lymphopoietin production via NF- κ B.	J Dermatol Sci. 2017 Jun 22. pii: 1803-1811	Original Article
82	Yamauchi M, Hirohashi Y, Torigoe T, et al.	形成外科	Wound healing delays in α -Klotho-deficient mice that have skin appearance similar to that in aged humans-Study of delayed wound healing mechanism.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 May ; 473 : 842-52	Original Article
83	Yamashita K, Yotsuyanagi T, Yamauchi M, et al.	形成外科	Subcutaneous pedicle V-Y flap for release of incomplete congenital syndactyly.	J Plast Reconstr Aesthet Surg 2016 Aug (オンライン)	Original Article
84	Ikehata Y, Tanaka T, Masumori N.	泌尿器科学講座	Response to Re: Incidence and risk factors for acute kidney injury after radical cystectomy.	Int J Urol. 2016 Nov;23(11):964-5	Original Article

85	Takayanagi A, Kobayashi K, Fukuta F, et al.	泌尿器科学講座	Changes of sexual function and perception in Japanese men: A 15-year cross-sectional community-based study.	Int J Urol. 2016 Nov;23(11):941-5.	Original Article
86	Furuya S, Masumori N, Takayanagi A.	泌尿器科学講座	Natural history of hematospermia in 189 Japanese men.	Int J Urol. 2016 Nov;23(11):934-40.	Original Article
87	Hiyama Y, Takahashi S, Uehara T, et al.	泌尿器科学講座	A case of infective endocarditis and pyogenic spondylitis after transrectal ultrasound guided prostate biopsy.	J Infect Chemother. 2016 Nov;22(11):767-9.	Original Article
88	Maehana T, Tanaka T, Kitamura H, et al.	泌尿器科学講座	Heat Shock Protein 90 α Is a Potential Serological Biomarker of Acute Rejection after Renal Transplantation.	PLoS One. 2016 Sep 15;11(9)(オンライン)	Original Article
89	Shindo T, Kitamura H, Kobayashi K, et al.	泌尿器科学講座	Clinical significance of adding 3 Tesla MRI to the algorithm for decision making on neurovascular bundle preservation in radical prostatectomy.	Jpn J Clin Oncol. 2016 Aug 30.(オンライン)	Original Article
90	Masumori N, Tsukamoto T, Shibuya A, et al.	泌尿器科学講座	Three-year outcome analysis of alpha 1-blocker naftopidil for patients with benign prostatic hyperplasia in a prospective multicenter study in Japan.	Patient Prefer Adherence. 2016 Jul 22;10:1309-16.	Original Article
91	Tanaka Y, Tanuma Y, Masumori N.	泌尿器科学講座	Long-term prospective study of the persistence of solifenacin succinate in previously untreated Japanese female patients with overactive bladder.	Int J Urol. 2016 Oct;23(10):866-72.	Original Article
92	Takahashi S, Hamasuna R, Yasuda M, et al.	感染制御・臨床検査医学講座	Nationwide surveillance of the antimicrobial susceptibility of Chlamydia trachomatis from male urethritis in Japan.	J Infect Chemother. 2016 Sep;22(9):581-6.	Original Article

93	Nagata Y, Sugiyama Y, Fukuta F, et al.	公衆衛生学講座	Relationship of serum levels and dietary intake of isoflavone, and the novel bacterium <i>Slackia</i> sp. strain NATTS with the risk of prostate cancer: a case-control study among Japanese men.	Int Urol Nephrol. 2016 Sep;48(9):1453-60.	Original Article
94	Ikehata Y, Tanaka T, Ichihara K, et al.	泌尿器科学講座	Incidence and risk factors for acute kidney injury after radical cystectomy.	Int J Urol. 2016 Jul;23(7):558-63.	Original Article
95	Ichihara K, Masumori N, Takahashi S, et al.	泌尿器科学講座	Bladder Neck Rupture and Vesicovaginal Fistula Associated with Pelvic Fracture in Female.	Low Urin Tract Symptoms. 2015 May;7(2):115-7.	Original Article
96	Ikehata Y, Tanaka T, Ichihara K, et al.	泌尿器科学講座	Incidence and risk factors for acute kidney injury after radical cystectomy.	Int J Urol. 2016 Jul;23(7):558-63.	Original Article
97	Hirobe M, Masumori N, Tanaka T, et al.	泌尿器科学講座	Clinicopathological characteristics of Xp11.2 translocation renal cell carcinoma in adolescents and adults: Diagnosis using immunostaining of transcription factor E3 and fluorescence in situ hybridization analysis.	Int J Urol. 2016 Feb;23(2):140-5.	Original Article
98	Takano K, Yamamoto M, Takahashi H, 他	耳鼻咽喉科	Recent advances in knowledge regarding the head and neck manifestations of IgG4-related disease.	Auris Nasus Larynx. 2017 Feb;44(1):7-17	Review
99	Nagaya T, Kawata K, Kamekura R, 他	耳鼻咽喉科	Lipid mediators foster the differentiation of T follicular helper cells.	Immunol Lett. 2017 Jan;181:51-57	Original Article
100	Ogasawara N, Takano KI, Kobayashi H, 他	耳鼻咽喉科	HIV-associated cystic lesions of the parotid gland.	Auris Nasus Larynx. 2017 Feb;44(1):126-130	Case report

101	Kazufumi Obata	耳鼻咽喉科	Common carotid artery rupture during treatment with lenvatinib for anaplastic thyroid cancer	International Cancer Conference Journal Published online 27 July 2016	Case report
102	Tsubomatsu C, Shintani T, Abe A, 他	耳鼻咽喉科	Diagnosis and Treatment of Obstructive Sleep Apnea Syndrome in Children.	Adv Otorhinolaryngol. 2016;77:105-11. 2016 Apr 26.	Review
103	Yamamoto K, Yamamoto S, Ogasawara N, 他	耳鼻咽喉科	Clarithromycin prevents human respiratory syncytial virus-induced airway epithelial responses by modulating activation of interferon regulatory factor-3.	Pharmacol Res. 111:804-14, 2016.	Original Article
104	Shirasaki H, Kanaizumi E, Himi T.	耳鼻咽喉科	Immunohistochemical localization of alpha and beta adrenergic receptors in the human nasal turbine.	Auris Nasus Larynx 43 : 309 - 314, 2016.	Original Article
105	Shirasaki H, Kanaizumi E, Himi T.	耳鼻咽喉科	Expression and localization of GPR99 in human nasal mucosa.	Auris Nasus Larynx 44: 162- 167, 2017.	Original Article
106	Shirasaki H, Yamamoto T, Abe S, 他.	耳鼻咽喉科	Clinical benefit of component-resolved diagnosis in Japanese birch-allergic patients with a convincing history of apple or peach allergy.	Auris Nasus Larynx 44: 442- 446, 2017.	Original Article
107	Takano K, Kakuki T, Obata K 他	耳鼻咽喉科	The Behavior and Role of Lipolysis-stimulated Lipoprotein Receptor, a Component of Tricellular Tight Junctions, in Head and Neck Squamous Cell Carcinomas.	Anticancer Res 36(11):5895-5904,2016.	Original Article
108	Takano K, Yamamoto M, Ichimiya S 他	耳鼻咽喉科	Assessing the usefulness of salivary gland biopsy for diagnosis of type-1 autoimmune pancreatitis.	Mod Rheumatol 18:1-3,2016.	Original Article

109	Takano K,Ogasawara N,Matsunaga T 他	耳鼻咽喉科	A novel nonsense mutation in the NOG gene causes familial NOG-related symphalangism spectrum disorder.	Hum Genome Var 3:16023,2016.	Original Article
110	Takano K,Kaizaki A,Saikawa E 他	耳鼻咽喉科	Outcomes of visually impaired patients who received cochlear implantations.	Auris Nasus Larynx 43(3):242-246,2016.	Original Article
111	Takano K,Takahashi N,Ogasawara N 他	耳鼻咽喉科	The Association of External and Middle Ear Anomaly and mandibular Morphology in congenital Microtia.	Otol Neurotol 37 (7):889-894,2016.	Original Article
112	Takano K,Wanibuchi M,Ito F 他	耳鼻咽喉科	Pseudoaneurysm of an aberrant internal carotid artery in the middle ear caused by myringotomy.	Auris Nasus Larynx 43 (6):698-701,2016	Case report
113	Takano K,Nomura K,Abe A 他	耳鼻咽喉科	Clinicopathological analysis of salivary gland tissue from patients with IgG4-related disease.	Acta Otolaryngol 136 (7):717-721,2016	Original Article
114	Yamasita K, Kawata K, Matumiya H 他	耳鼻咽喉科	Bob1 limits cellular frequency of T-follicular helper cells.	Eur J Immunol 46(6):1361-1370,2016	Original Article
115	Abe A,Takano K,Kojima T 他	耳鼻咽喉科	Interferon-gamma increased epithelial barrier function via upregulating claudin-7 expression in human submandibular gland duct epithelium.	J Mol Histol 47 (3) :353-363,2016	Original Article
116	Kakuki T,Kurose M, Takano K 他	耳鼻咽喉科	Dysregulation of junctional adhesion molecule-A via p63/GATA-3 in head and neck squamous cell carcinoma.	Oncotarget7(23):33887-33900,2016.	Original Article

117	Kakuki T, Takano K, Kurose M 他	耳鼻咽喉科	Accessory parotid gland tumors: A series of 4 cases.	Ear Nose Throat J 95(7):E35-38, 2016.	Case report
118	Takada Y, Someya M, Matsumoto Y, et al.	放射線治療科	Influence of Ku86 and XRCC4 expression in uterine cervical cancer on the response to preoperative radiotherapy.	Med Mol Morphol. 2016 Dec;49(4):210-216	Original Article
119	Hori M, Someya M, Matsumoto Y, et al.	放射線治療科	Influence of XRCC4 expression in esophageal cancer cells on the response to radiotherapy	Med Mol Morphol. 2017 Mar;50(1):25-33	Original Article
120	Hasegawa, Someya M, Hori M, et al.	放射線治療科	Expression of Ku70 predicts results of radiotherapy in prostate cancer.	Strahlenther Onkol. 2017 Jan;193(1):29-37	Original Article
121	Saito Y, Tateoka T, Nakata A, et al.	放射線治療科	Evaluation of Non-Rigid Image-Registration Algorithms Using Discrepancy Distance Between Organ Contours	J Nucl Med Radiat Ther. 2016 Sep;7(5)(オンライン)	Original Article
122	Nakazawa T, Tateoka K, Saito Y, et al.	放射線治療科	Analysis of Prostate Deformation during a Course of Radiation Therapy for Prostate Cancer.	PLoS One. 2015 Jun 29;10(6):e0131822.	Original Article
123	Someya M, Hasegawa T, Hori M, et al.	放射線治療科	Local tumor control and DNA-PK activity of peripheral blood lymphocytes in prostate cancer patients receiving radiotherapy.	J Radiat Res. 2017 Mar 1;58(2):225-231.	Original Article
124	Onodera M, Yama N, Hashimoto M, et al.	医学部放射線診断学	The signal intensity ratio of the optic nerve to ipsilateral frontal white matter is of value in the diagnosis of acute optic neuritis.	Eur Radiol. 2016 Aug;26(8):2640-5. doi: 10.1007/s00330-015-4114-4. Epub 2015 Nov 25.	Original Article

125	Chaki T	麻醉科	Efficacy and safety of a lidocaine and ropivacaine mixture for scalp nerve block in patients undergoing awake craniotomy.	J Neurosurg Anesthesiol 2016	Original Article
126	Takahashi K	麻醉科	Severity of myasthenia gravis influences the relationship between TOF ratio and twitch tension, and run-down of rat endplate potentials.	Anesthesiology 2016	Original Article
127	Murouchi T	麻醉科	Quadratus lumborum block: analgesic effects and chronological ropivacaine concentrations after laparoscopic surgery.	Reg Anesth Pain Med 2016	Original Article
128	Kimijima T	麻醉科	Comparison of fluid leakage across endotracheal tube cuffs using a three-dimensional printed model of the human trachea.	J Anesth 2016	Original Article
129	Hayase T	麻醉科	Effect of sevoflurane anesthesia on the comprehensive mRNA expression profile of the mice.	Med Gas Res 2016	Original Article
130	Kazuma S	麻醉科	Almost total airway obstruction due to unidentified massive hemoptosis under extracorporeal membrane oxygenation.	Int J Crit Care Emerg Med 2016	Case report
131	Sawada A	麻醉科	Effect of intraoperative glucose infusion during remifentanil anesthesia on catabolism of adipose tissue and muscle protein in patients undergoing major surgery: a randomized controlled multicenter trial.	Anesth Analg 2016	Original Article

132	Niiyama Y	麻醉科	Continuous wound infiltration with 0.2% ropivacaine versus a single intercostal nerve block with 0.75% ropivacaine for postoperative pain management after reconstructive surgery for microtia.	J Plast Reconstr Aesthet Surg 2016	Original Article
133	Hayase T	麻醉科	Effect of sevoflurane anesthesia on the comprehensive mRNA expression profile of the mouse hippocampus.	Med Gas Res 2016	Original Article
134	Murouchi T	麻醉科	Retrolaminar block: analgesic efficacy and safety evaluation.	J Anesth 2016	Original Article
135	Chaki T	麻醉科	Remifenitanil prevents increases of blood glucose and lactate levels during cardiopulmonary bypass in pediatric surgery.	Ann Cardiac Anaesth 2017	Original Article
136	Zhou J	麻醉科	Time- and dose-dependent effects of desflurane in sensitized airways.	Anesth Analg 2017	Original Article
137	Chihara S	麻醉科	Experimental and clinical evaluation of pre-dilution and post-dilution continuous veno-venous hemofiltration on clearance characteristics.	ASAIO J 2017	Original Article
138	Chihara S	麻醉科	Early induction of direct hemoperfusion with a polymixin-B immobilized column is associated with amelioration of hemodynamic derangement and mortality in patients with septic shock.	J Artif Organs 2017	Original Article

139	Sasaki H	麻酔科	Possible utility of contrast-enhanced ultrasonography for detecting spread of local aesthetic in nerve block.	J Anesth 2017	Original Article
140	Tachibana N	麻酔科	Less postoperative sore throat after nasotracheal intubation using a fiberoptic bronchoscope than using a Macintosh laryngoscope: A double-blind, randomized, controlled study.	J Clin Anesth 2017	Original Article
141	Nakagaki Takafumi, Kazuhiro Ogi, Masato Abe	口腔外科学講座	Low-grade mucoepidermoid carcinoma with regional lymphnode metastasis: A case report and genetic review of criteria for grading.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, medicine, and Pathology, 2016; 28; 189-192	Case report
142	Sasaki Y, Sasaki M, Kataoka-Sasaki Y, et al.	リハビリテーション部	Synergic Effects of Rehabilitation and Intravenous Infusion of Mesenchymal Stem Cells After Stroke in Rats	Phys Ther. 2016 Nov;96(11):1791-1798.	Original Article
143	Nakazaki M, Nonaka T, Takahashi A, et al.	神経再生医療科	Double balloon protection during carotid artery stenting for vulnerable carotid stenosis reduces the incidence of new brain lesions.	Acta Neurochir (Wien). 2016 Jul;158:1377-86.	Original Article
144	Nakazaki M, Sasaki M, Kataoka-Sasaki Y, et al.	神経再生医療科	Intravenous infusion of mesenchymal stem cells inhibits intracranial hemorrhage after recombinant tissue plasminogen activator therapy for transient middle cerebral artery occlusion in rats.	J Neurosurg. 2017 Jan;6:1-10.	Original Article
145	Noshiro S, Mikami T, Kataoka-Sasaki Y, et al.	脳神経外科	Co-expression of tissue factor and IL-6 in immature endothelial cells of cerebral cavernous malformations.	J Clin Neurosci. 2017 Mar;37:83-90.	Original Article
146	Yasui K, Yuda S, AbeK, et al.	検査部	Pulmonary vascular resistance estimated by Doppler echocardiography predicts mortality in patients with interstitial lung disease	J Cardiol 2016 ; 68: 300-307.	Original Article

147	Kondo T, Kobayashi D, Mochizuki M et al.	検査部	Analysis of the causes of discrepancies in troponin I concentrations as measured by ARCHITECT High-Sensitive Troponin I ST and STACIA CLEIA cTnI	Ann Clin Biochem 2017 ; 54: 121-126	Original Article
148	Abe K, Yuda S, Yasui K et al.	検査部	Soleal vein dilatation assessed by ultrasonography is an independent predictor for deep vein thrombosis after major orthopedic surgery	J Cardiol 2017 ; 69: 756-762	Original Article
149	Koizumi Y, Furuya D, Endo T et al.	検査部	Quantification of Wilms' tumor 1 mRNA by digital polymerase chain reaction	Int J Hematol in press	Original Article
150	Sugita S, Obata M, Takebayashi S, et al.	病理診断科	Angiomyxomatous tumor of the falx cerebri.	Pathol Int. 2016 Jan; 66: 50-51	Letter
151	Hirano H, Maeda H, Takeuchi Y, et al.	病理診断科	Primary pulmonary Ewing sarcoma.	Pathol Int. 2016 Apr; 66: 239-241	Letter
152	Sugita S, Asanuma H, Hasegawa T.	病理診断科	Diagnostic use of fluorescence in situ hybridization in expert review in a phase 2 study of trabectedin monotherapy in patients with advanced, translocation-related sarcoma.	Diagn Pathol. 2016 Apr; 11: 37	Original Article
153	Yasuda K, Hirohashi Y, Kuroda T, et al.	病理学第一講座	MAPK13 is preferentially expressed in gynecological cancer stem cells and has a role in the tumor-initiation.	Biochem Biophys Res Commun. 2016 Apr; 472: 643-647	Original Article
154	Sugita S, Hirano H, Kikuchi N, et al.	病理診断科	Diagnostic utility of FOSB immunohistochemistry in pseudomyogenic hemangioendothelioma and its histological mimics.	Diagn Pathol. 2016 Jul; 11: 75	Original Article

155	H. Takashima, T. Takebayashi, I. Ogon et al.	放射線部	Evaluation of intramyocellular and extramyocellular lipids in the paraspinal muscle in patients with chronic low back pain using MR spectroscopy: preliminary results	Br J Radiol. 2016 Jun 21:20160136.	Original Article
156	T. Chono, M. Onoguchi, T. Shibutani et al.	放射線部	Improvement in automated quantitation of myocardial perfusion abnormality by using iterative reconstruction image in combination with resolution recovery, attenuation and scatter corrections for the detection of coronary artery disease	Ann Nucl Med. 2017 Feb;31(2):181-189.	Original Article
157	Miyata K, Ochi S, Enatsu R, et al.	救急医学講座	Etiology of Sudden Cardiac Arrest in Patients with Epilepsy: Experience of Tertiary Referral Hospital in Sapporo City, Japan.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 May; 56(5): 249-256.	Original Article
158	Miyata K, Iihoshi S, Wanibuchi M, et al.	救急医学講座	Transfemoral carotid artery stenting using proximal balloon protection for patients with severe elongation of the aortic arch - The method of inner-catheter exchange with the balloon guide catheter r anchored: "BGA Exchange" method- .	Journal of Neuroendovascular Therapy Vol. 10 (2016) No. 4 p. 225-230.	Case report
159	Yamaoka A, Miyata K, Narimatsu E, et. al	救急医学講座	Cerebral air embolism associated with penetrating lung injury: a case report and review of the literature Acute Medicine and Surgery.	Published online 2016 Nov 10. doi: 10.1002/ams2.250	Case report
160	Bunya N, Sawamoto K, Benoit H, et.al	救急医学講座	The Effect of Parathion on Red Blood Cell Acetylcholinesterase in the Wistar Rat.	J Toxicol 2016; 2016: 4576952. PMID: 27418928	Original Article
161	Bunya N, Sawamoto K, Uemura S, et.al	救急医学講座	How to manage tension gastrothorax: a case report of tension gastrothorax with multiple trauma due to traumatic diaphragmatic rupture	International Journal of Emergency Medicine 2017 Jan: DOI: 10.1186/s12245-017-0131-1	Case report

162	Bunya N, Sawamoto K, Uemura S, et. Al	救急医学講座	Cardiac arrest caused by sibutramine obtained via the Internet; a case of young female without preexisting cardiovascular disease successfully resuscitated using extracorporeal membrane oxygenation.	Acute Medicine and Surgery. 2017;March; 4: 334-337	Case report
163	Uemura S. Yokota S. Shiraishi T et. al	救急医学講座	Adaptive Cross-Resistance to Aminoglycoside Antibiotics in Pseudomonas aeruginosa Induced by Topical Dosage of Neomycin	Chemotherapy 2017.Feb;62:121-127	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Masato Saito, Naoki Hirokawa, Yoko Usami, et al.	放射線治療科	Differential diagnosis between intraductal papillary mucinous neoplasm with an associated invasive carcinoma and pancreatic ductal adenocarcinoma on ultrasonography: the utility of echo intensity and contrast. enhancement.	Ultrasonography. 2017 July;36(3):260-269	Original Article
2	Minoru Kikuchi, Naoki Hirokawa, Seiya Hagiwara, et al.	放射線治療科	Ultrasonography improves glycemic control by detecting insulin-derived localized amyloidosis.	Ultrasound Med Biol. 2017 Oct;43(10):2284-2294	Original Article
3	Satoshi Kazuma	集中治療医学	Almost Total Airway Obstruction Due to Unidentified Massive Hemoptysis under Extracorporeal Membrane Oxygenation	Crit Care Emerg Med 2(1),012,2016	Original Article
4	若松千裕, 石 合純夫, 林圭 輔, et al.	リハビリテーション部	語義聾症例における文 字言語の理解過程ー通 常見かけない文字表記 語による検討ー	高次脳機能研究. 201;36, (1):9-19.	Original Article
5	石合純夫	リハビリテーション科	脳血管障害(右半球損 傷)ー半側空間無視と関 連症例ー	Jpn J Rehabil Med.2016;53:266-272.	Review
6	横山林太郎、 飯星智史、宮 田 圭、他.	脳神経外科	血管内治療が有効で あった小児医原性椎 骨動静脈瘻の1例.	脳外 44:857-861, 2016.	Case report
7	三上 毅	脳神経外科	MRIによるもやもや病 の診断と脳循環代謝 評価.	脳循環代謝 27:307-312, 2016.	Original Article
8	山蔭道明	麻酔科	8. 麻酔前投薬と術前 評価. 麻酔科学レ ビュー2016ー最新主 要文献集ー	総合医学社, 2016	Others

9	立花俊祐	麻酔科	(1)深部体温計. VI. 体温. 麻酔科医のための周術期のモニタリング《新戦略に基づく麻酔・周術期管理》	中山書店, 2016	Review
10	早瀬 知	麻酔科	A. テント上腫瘍. 2. 脳・脊髄腫瘍の麻酔管理. XII. 各論・麻酔管理. 神経麻酔	克誠堂出版(株), 2016	Others
11	枝長充隆	麻酔科	B. テント下腫瘍(小脳橋角部腫瘍も含む). 2. 脳・脊髄腫瘍の麻酔管理. XII. 各論・麻酔管理. 神経麻酔.	克誠堂出版(株), 2016	Others
12	山蔭道明	麻酔科	8. 麻酔前投薬と術前評価. 麻酔科学レビュー2017-最新主要文献集-	総合医学社, 2017	Review
13	時永泰行	麻酔科	7. 術前と術中の輸液管理. A. ベイシック編. 救急・集中治療のための輸液管理Q & A(第3版)-研修医からの質問365-	総合医学社, 2017	Review
14	新山幸俊	麻酔科	術後マルチモーダル鎮痛におけるアセトアミノフェンの立ち位置	臨床麻酔(臨時増刊号) 2016	Review
15	平田直之	麻酔科	Oxygen Reverse Index:新しい酸素化モニターの可能性	臨床麻酔 2016	Review
16	時永泰行	麻酔科	I. 腎臓及びブドウ糖代謝障害が発生する? -今後の輸液戦略のキーワード-. II. 微小循環障害からみたショックの病態. 特集「ショック管理-ショックと臓器障害関連のメカニズム-	救急・集中治療 2017	Review
17	澤田敦史	麻酔科	経直腸的前立腺生検における超音波ガイド下仙骨硬膜外麻酔の有用性-脊髄くも膜下麻酔との比較-	麻酔 2016	Original Article

18	千原伸也	麻酔科	急性血液浄化療法における血液浄化量の意義—高浄化量CHF/CHDFの可能性.	日本血液浄化技術学会会誌 2016	Original Article
19	立花俊祐	麻酔科	94. 新鮮ガス流量を変化させるとどのようなことが起こるか. 新麻酔科研修の素朴な疑問に答えます	メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2016	Others
20	山蔭道明	麻酔科	特集にあたって. 特集「体温管理: どうして必要? どうすればいい?」にお答えします	「オペナース誌」手術ナーシング(3巻2号). (株)医学出版, 2016	Others
21	山蔭道明	麻酔科	序. 今さら聞けない麻酔科の疑問108—基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで	文光堂, 2017	Others
22	山蔭道明	麻酔科	Q1. 麻酔科ってどんな学問ですか? 今さら聞けない麻酔科の疑問108—基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで	文光堂, 2017	Others
23	山蔭道明	麻酔科	Q2. 麻酔薬ってどう聞くのですか? 今さら聞けない麻酔科の疑問108—基本事項から専門医が知っておきたい知識・テクニックまで	文光堂, 2017	Others
24	山蔭道明	麻酔科	序文. 日めくり麻酔科エビデンスアップデート~1日1つ, 3カ月で100の知見を得る~	克誠堂出版, 2017	Others
25	君島知彦	麻酔科	経皮的気管切開術施行時の腕頭動脈異常走行例の経験	日集中医誌 2016	Case report
26	君塚基修	麻酔科	気道確保にMcGRATH-MAC®が有用であったBlue rebber bleb nevus syndromeの1症例	臨床麻酔 2016	Case report
27	君塚基修	麻酔科	Kniest dysplasiaを合併した帝王切開術の1症例	分娩と麻酔 2016	Case report

28	石岡慶己	麻酔科	複発性帯状疱疹に対して発症早期からの神経ブロックが著効した1症例	日本ペインクリニック学会誌 2017	Case report
29	Edanaga M	麻酔科	A case of hemothorax due to traumatic bleeding managed effectively by Sonoclot®-guided blood transfusion.	JA Clin Rep 2016	Case report

計30件

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・後期研修・専門医制度プログラムは、専門医の取得を目指した研修です。そのため、志望する分野を専門とする診療科に所属し、基本的にその診療科を中心とする研修を受けていただきます。また、多くの学会の認定教育施設となっているため、複数の専門医資格を取得することも可能です。

・領域
内科、皮膚科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、麻酔科、小児科、精神科、整形外科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、救急科、形成外科、病理、総合診療科
※領域については、新専門医制度基本領域のみ。
(歯科口腔外科についても後期研修を行っています。)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	196人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
高橋 弘毅	内科	内科統括責任者	37年	
宇原 久	皮膚科	科長	32年	
竹政 伊知朗	外科	外科統括責任者	25年	
齋藤 豪	産婦人科	科長	31年	
氷見 徹夫	耳鼻咽喉科	科長	37年	
三國 信啓	脳神経外科	科長	29年	
山蔭 道明	麻酔科	科長	30年	
堤 裕幸	小児科	科長	39年	
河西 千秋	神経精神科	科長	28年	
山下 敏彦	整形外科	病院長	34年	
大黒 浩	眼科	科長	33年	
舛森 直哉	泌尿器科	科長	29年	
畠中 正光	放射線科	統括責任者	32年	
石合 純夫	リハビリテーション科	科長	35年	
成松 英智	救急	科長	31年	
四ツ柳 高敏	形成外科	科長	29年	
長谷川 匡	病理	科長	31年	
山本 和利	総合診療科	科長	39年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	札幌医科大学附属病院病院長 山下 敏彦
管理担当者氏名	総務課長 小野田 弘義／病院課長 小野寺 誠司／医療連携福祉センター長 三國 信啓／薬剤部長 宮本 篤／医療安全部長 土橋 和文／感染制御部長 高橋 聡／医事経営管理部長 土橋 和文

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院課、各診療科、カルテ庫、各診療関係部科 病歴資料については、診療科毎に作成しカルテ庫で管理(一診療科一カルテ) エックス線写真については、各診療科とカルテ庫において保管管理 診療録を病院外に持ち出すことは禁止している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	各診療科
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	各診療科
		高度の医療の研修の実績	病院課
		閲覧実績	—
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携福祉センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事経営課及び薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事経営課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事経営課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事経営課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事経営課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事経営課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	病院課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	病院課
		監査委員会の設置状況	病院課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療連携福祉センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全部
		職員研修の実施状況	各関係部課
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	各関係部課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学 理事長 塚本 泰司	
閲覧担当者氏名	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課長 小野田弘義	
閲覧の求めに応じる場所	北海道公立大学法人札幌医科大学事務局総務課	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none">・開示（閲覧）請求の受付・開示（閲覧）について内部決定・指定した日時・場所において担当職員立会のもと開示（閲覧）		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容： 「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」 医療の安全管理に関する基本方針を定めるとともに院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について 11 項目を規定している。</p> <p>1 総則 2 医療安全管理のための体制 3 医療事故等に関する報告制度 4 医療の安全確保を目的とした改善のための方策 5 安全管理のための教職員研修 6 医療事故発生時の対応方法 7 患者相談窓口の設置 8 安全な医療を提供するためのマニュアル・ガイドライン 9 本指針の閲覧 10 附則</p> <p>OH29. 4. 1 医療安全部の役割に高難度新規医療技術に関すること及び未承認新規医薬品等を用いた医療に関することを追加。</p> <p>OH29. 7. 1 外部評価に年 2 回以上の監査委員会の開催及び他の特定機能病院とのピアレビューの実施について明記。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有)</p> <p>・ 開催状況と活動の主な内容：</p> <p>○医療事故防止対策委員会 (定例) 年 1 2 回 医療事故等の発生原因の分析・再発防止策の検討及び指導を実施。 * 検討結果は、院内へ周知徹底を図っている。</p> <p>○安全対策委員会 (定例) 年 1 2 回 医療事故防止対策委員会から諮問された事項に係る具体的な内容の検討、医療安全対策マニュアルの改善、院内巡回。</p> <p>○リスクマネージャー連絡会議 (定例) 年 6 回 インシデントの周知と注意喚起を行い、再発防止策を自部署へフィードバック。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 0 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○全職員を対象とした安全対策研修会 年 7 回 (医療安全講演会 2、トピックス研修会 3、医薬品研修 1、KYT 研修 1)</p> <p>○全職員を対象とした BLS・AED 講習会 年 5 回</p> <p>○全職員を対象とした ICLS 講習会 年 1 回</p> <p>○その他医師、看護師・看護助手を対象とした研修会 年 7 回 (トピックス研修会 6、PICCカテーテルハンズオントレーニング 1)</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)</p> <p>「札幌医科大学附属病院における安全管理指針」において、医療事故等の区分を 6 段階にレベル分けしている内容を整備し、院内報告の仕方や取り扱いを明らかにするとともに再発防止策の検討方法を規定している。また、死亡例全例の医療安全への報告体制を規定している。</p>	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

○医療安全確保のための業務改善計画書に基づく巡回点検の実施

各部署において「医療安全確保のための業務改善計画書」作成し実施。

診療部門では、インフォームドコンセントの適正な診療録への記載・患者誤認防止対策の取り組み・5S活動の実施の3項目について取り組みをした。看護部門では、インフォームドコンセント後の患者家族の反応とケアの記録・患者誤認防止対策の取り組み・5S活動の実施の3項目について取り組みをした。中央部門・事務部門においても、患者誤認防止対策の取り組みまたは自部署で考える院内安全対策への取り組み・5S活動の実施について取り組みをした。

実施状況については、安全対策委員会にて病棟巡回・外来巡回で確認するとともに、医療防止対策委員会においても2月頃に巡回し評価を行った。

○安全対策委員会において、例年通りマニュアルの実施状況調査として手術部位誤認防止の実施状況調査、侵襲的な検査処置での患者誤認防止及び外来での検査・処置・治療の患者誤認防止に係る院内巡回を行っている。

○医療安全推進週間の開催

医療安全対策に関して医療関係者の意識の向上と医療機関における組織的な取組の促進などを図る目的で開催した。取組内容は、「医療安全講演会」「PICCカテーテルハンズオントレーニング～安全なエコー下手技～」 「多職種によるKYT研修」「医療安全大賞の表彰」など各種企画し実施した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：「札幌医科大学附属病院院内感染対策指針」 札幌医科大学附属病院における院内感染対策に関する基本事項について、規定したものである。 院内感染対策についての意識の向上に資するものである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染対策に関する基本的考え方2. 院内感染対策のための管理体制・組織3. 院内感染対策のための職員研修4. 感染症の発生状況の報告5. 院内感染発生時の対応6. 患者等に対する本指針の閲覧7. その他の院内感染対策の推進	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内における感染情報の周知及び分析・ 感染防止の対応報告及び検討・原因究明・ 抗菌薬使用状況・ その他院内感染対策に関する事項	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 病院感染対策講習会 3回：全職員を対象とする・ 清掃委託業者における病院感染対策講習会 2回：清掃委託業者全員を対象とする・ 研修医への講義 1回：新規採用研修医を対象とする・ 新規採用看護師への講義 1回：新規採用された看護師全員を対象とする・ 中途採用者への講義 10回：年度途中に採用された職員全員を対象とする	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)</p> <ul style="list-style-type: none">・ 「感染症発症連絡票」を用いて、患者や職員の感染症発生に関する報告を受けている・ 検査部(細菌検査)からの報告を、感染対策ソフトも用いて院内の菌やウイルスの検出状況を把握し、必要に応じて各部署の責任者などへ詳細報告を求めている <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 感染制御チームを設置し、院内感染の状況、抗菌薬適正使用、診断に必要な検体採取状況、職員の感染対策実施の状況などを把握し、適宜介入を行っている・ 定期広報紙を発行し、院内および市中における感染情報や対策などについて注意喚起をしている・ 感染制御チームによる病棟ラウンドを実施し、臨床現場の現状把握や改善内容の提案をしている・ 平成24年度より当院における1年間の分離株薬剤感受性率表「アンチバイオグラム」をポケット版で作製している。医師・薬剤師等に配布するとともに電子カルテ上でも確認できるようにし、抗菌薬の適切な選択をしやすくしている	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年12回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 臨床研修医オリエンテーション（医薬品の適正処方と適正使用）・ 看護部新規採用職員研修（薬剤部の機能と役割）・ トピックス研修会（B型肝炎の再燃化と当院の現状、処方時・投薬時の注意点）計4回・ 医薬品・医療機器安全管理研修会（最近の事例とその対策）・ 新人看護職員研修（薬剤部門研修）計5回	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 手順書の作成 （有）・ 業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 医師：患者情報・処方時の薬剤・併用薬・残薬等の確認、初回処方時の説明、看護師等への指示の確実な伝達等・ 看護師：与薬・注射投与時の患者及び薬剤の確認、指示変更の確認、医薬品の保管管理等・ 薬剤師：医薬品の採用・購入・管理・調剤、規制薬品等の記録・保存、医薬品情報の収集・提供、他施設との連携	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ がん化学療法に係る注射箋及び注射ラベルへの薬液量の全量記載<ul style="list-style-type: none">* 院内インシデント報告、シリンジポンプの薬剤量や溶液量の設定間違い(医療安全情報)・ 入院患者に対するレブラミド・ポマリスト誤投与防止のための標準手順書の作成<ul style="list-style-type: none">* レブラミド・ポマリスト製剤の誤投与関連情報(医政総発0804第1号、薬生薬審発0215第1号、医薬品・医療機器等安全性情報No. 341)	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有																																
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 回																																
・ 研修の主な内容：人工心肺装置及補助循環装置（2回） 人工呼吸器（2回） 血液浄化装置（2回） 除細動器（2回） 閉鎖式保育器（2回） 診療用高エネルギー放射線発生装置及び診療用放射線照射装置（2回）																																	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																																	
・ 医療機器に係る計画の策定 （有） ・ 保守点検の主な内容： <table><tr><td>指定機器</td><td></td><td>指定機器以外</td><td></td></tr><tr><td>・ 人工心肺装置及び補助循環装置</td><td>6 件</td><td>・ 在宅療法貸借医療機器</td><td>2 4 件</td></tr><tr><td>・ 人工呼吸器</td><td>4 2 件</td><td>・ その他（在宅除く）</td><td>3 5 件</td></tr><tr><td>・ 血液浄化装置</td><td>1 2 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 除細動器（A E D 除く）</td><td>1 7 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 閉鎖式保育器</td><td>1 0 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 診療用高エネルギー放射線発生装置</td><td>3 件</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 診療用放射線照射装置</td><td>1 件</td><td></td><td></td></tr></table>		指定機器		指定機器以外		・ 人工心肺装置及び補助循環装置	6 件	・ 在宅療法貸借医療機器	2 4 件	・ 人工呼吸器	4 2 件	・ その他（在宅除く）	3 5 件	・ 血液浄化装置	1 2 件			・ 除細動器（A E D 除く）	1 7 件			・ 閉鎖式保育器	1 0 件			・ 診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件			・ 診療用放射線照射装置	1 件		
指定機器		指定機器以外																															
・ 人工心肺装置及び補助循環装置	6 件	・ 在宅療法貸借医療機器	2 4 件																														
・ 人工呼吸器	4 2 件	・ その他（在宅除く）	3 5 件																														
・ 血液浄化装置	1 2 件																																
・ 除細動器（A E D 除く）	1 7 件																																
・ 閉鎖式保育器	1 0 件																																
・ 診療用高エネルギー放射線発生装置	3 件																																
・ 診療用放射線照射装置	1 件																																
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																																	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 「医療機器安全対策実施要領に基づき対応している。」																																	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有								
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>○医療安全管理責任者は当院における医療安全の総括的な責任を負うものとし、医療安全担当の副院長としている。医療安全管理責任者は、医療安全管理体制における医療事故防止対策委員会等の取りまとめ、医薬品管理責任者、医療機器安全管理責任者を統括する役割を規定している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 5 名）								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・指名した薬剤師が収集・整理した情報（DSU、医薬品・医療機器等安全性情報、イエロー・ブルーレターや PMDA、m3.com、製薬企業等から得た情報）は、必要に応じてメール配信や紙媒体等で周知するよう指示しており、病棟においては情報が確実に周知されているか病棟担当薬剤師に確認させている。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none">・未承認医薬品等を使用する場合は本院臨床倫理委員会で承認を受けることとしている。・未承認等の医薬品（未承認医薬品、適応外、禁忌）についてはその使用状況等を昨年 10 月より毎月担当薬剤師から報告を受けており、必要に応じて医薬品の適正使用のための注意喚起情報を周知することとしている。 <p>・担当者の指名の有無（有）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <table data-bbox="175 1635 1276 1836"><tr><td>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr><tr><td>（所属： ， 職種 ）</td><td>（所属： ， 職種 ）</td></tr></table>		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）						
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 各診療科で医療安全確保のための業務改善計画書においてインフォームドコンセントの適正な診療録への記載に取り組み、医療安全部において記載内容について確認と評価を行っている。 また、記載内容が乏しい診療科については、具体的な記載方法を例にあげ指導している。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 責任者である診療録管理委員会の委員長のもと、診療録マニュアルの作成及質的監査を企画・実施。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（５）名、専任（ ）名、兼任（４）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○医療の安全を確保するための改善方策に関すること ○医療安全管理のための教職員の教育と啓発に関すること ○医療事故発生時の対応に関すること ○医療事故防止対策委員会等の円滑な運営に関すること ○医療安全管理に関する院内の連絡調整 ○その他の医療安全管理に関する処務 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。 ○業務計画に基づき、診療録の適切な記載内容について医療事故防止対策委員会で巡回し評価している。 ○医療安全に係る研修会毎にアンケートと設問で認識や理解度を把握している。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術の提供に係る審査
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
未承認医薬品等の使用に係る審査
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 監査委員会の設置状況

有

- ・監査委員会の開催状況：年2回（予定）
- ・活動の主な内容：
医療安全体制、医療安全管理委員会、特定機能病院の承認要件に係る対応状況、医療安全部の業務等について、中立かつ客観的な立場から監査を行い、必要に応じて医療安全管理についての是正措置を講ずるよう理事長又は病院長へ意見を表明する。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）
- ・委員名簿の公表の有無（有）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有）
- ・公表の方法：
平成29年10月19日に第1回監査委員会の開催を予定しており、開催結果と併せて委員名簿及び選定理由等をHPで公開予定。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
橋場 弘之	田村・橋場法律事務所	○	法律に関する識見を有するもの	無	1
南須原康行	北海道大学附属病院		医療に係る安全管理に係る識見をもつもの	無	1
高田 久	北海道信用保証協会		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
元村 啓司	元 トーアエイヨ -(株)		医療を受ける立場から意見を述べる事ができるもの	無	2
小林 宣道	札幌医科大学		学内委員	有	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年638件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年104件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
医療事故を防止し安全な医療を提供する環境を整えることを目的として以下の活動を行っている。
 - 情報の収集及び提供
 - 発生原因の分析並びに発生防止のための具体策の検討及び指導
 - 発生防止に係る診療科等での措置状況の確認
 - 発生防止に係る研修及び教育
 - その他の医療事故の発生防止に係る事項

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ））・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ））・無）
- ・技術的助言の実施状況
平成28年度としての実績はないが、今年度11月に杏林大学医学部付属病院と相互の立入を実施することとなっている。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者相談窓口を医療連携福祉センターに設置し、患者・家族等からの相談に応じる。また、状況に応じて医療安全に関する相談には、医療安全管理者等が対応する。なお、安全対策が必要な場合は、医療事故防止対策委員会において協議し対応する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）
- ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

4月14日、18日 トピックス研修会「院内感染対策について」「当院の医療安全対策について」

5月18日、24日 トピックス研修会「放射線検査を安全に行うために」

6月6日、14日 トピックス研修会「B型肝炎の再活性化と当院の現状」

7月26日 医療安全講演会

「患者・市民と創る医療安全～患者のためのIC・カルテ開示・事故調査とは～」

9月5日、15日 トピックス研修会「RSTって何？安全な人工呼吸器管理を中心に」

10月11日、28日 拡大トピックス研修会「抗がん剤漏出の対策と対応」「CVポートの管理」
「穿刺に伴う神経損傷の対応」

11月7日、22日 トピックス研修会「エビデンスに基づいた医薬品の安全管理・危機管理
2016」

11月26日 医療安全講演会

「適切な診療記録とは～医事紛争に至ったケースから学ぶ効果的な記載内容～」

12月13日、19日 トピックス研修会「解決！輸血療法の疑問」

1月11日、16日 トピックス研修会「院内急変は大変！迅速対応システムが役に立つ！～MET
コールのお話～」

2月27日、28日 トピックス研修会「院内自殺における自傷・自殺事故の防止」

7月6日、8月17日、9月14日、10月5日、11月24日 BLS・AED講習会

12月22日 ICLS講習会

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○医療安全管理責任者が、北海道内医療事故調査等支援団体連絡協議会に参加した。

○医療安全部副部長（GRM）が、支援団体統括者セミナー（前期・後期）・医療安全マスター養成プログラム・北海道内医療事故調査等支援団体連絡協議会に参加した。

○医療安全部副部長（医師）が、国公私立大学附属病院医療安全セミナー・医療安全管理者養成研修会に参加した。

○管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、日本医療機能評価機構主催の平成29年度特定機能病院管理者研修に1月から3月の期間で参加する。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関：日本医療機能評価機構 時期：平成 26 年 9 月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 情報発信の方法：広報誌、ウェブサイト 内容等の概要：本院の役割や診察機能、医療技術など	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 歓和ケア診療、女性外来	

(様式第 8)

医大病第 435 号
平成 29 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

北海道公立大学法人札幌医科大学
理事長 塚本 泰司

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、日本医療機能評価機構主催の平成 29 年度特定機能病院管理者研修に 1 月から 3 月の期間で参加する。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち看護師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置